

# あいらの歴史と物語

発行責任者 始良歴史ボランティア協会

会長 竹之下 洲一

編集者 広報部 玉利 良一

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498 始良市歴史民俗資料館 0995 (65) 1553

## 「菱刈地区研修」

(平成30年度研修視察)

### 菱刈氏の歴史

梅田眞次



菱刈氏の初代重妙(保元の乱で崇徳上皇に属した藤原頼長の曾孫)は、後白河天皇から菱刈の両院(太良院・牛屎院)を賜り、建久4年(1193)源頼朝の命を受け、翌年太良城(本城)に着任しました。庶長子の重隆には馬越を、三男の重茂には曾木を与え、菱刈氏本家は次男の嫡子重実が継ぎました。

初代重妙、4代隆平\*は、宇治平等院との縁故によって中央の平安文化と交流があり、本城は北薩における文化の中心地として繁栄しました。南北朝時代、菱刈

氏は時代の流れに従い、時には南朝方、時には北朝方に属しました。その後、勢力を強め大口城をも支配するようになりましたが、5代以降の墓の所在など詳細は不明となっています。

この間も菱刈氏は親島津、反島津の立場を繰り返しましたが、永禄10年(1567)島津貴久は菱刈攻めにかかり、義弘に般若寺越えで馬越城を攻めさせ勝利を収めました。敗れた菱刈氏は15代重猛の弟隆秋が甥の鶴千代丸(母は薩州家島津義虎の姉)と共に大口城に籠城して島津氏を苦しめましたが、永禄12年(1569)鶴千代丸と城兵の助命を条件に大口城を開城し、隆秋本人は人吉相良氏のもとへ退去しました。大口城は新納忠元が地頭として入り菱刈地区をもあわせて治めました。貴久は鶴千代丸(後の重廣)に太良本城と曾木を与えましたが、後に島津氏に疑われ伊集院の下神殿に移されました。

重廣は慶長4年(1599)12月庄内の乱で島津義久の属将として出陣し戦死したため、菱刈氏はここに400年に及ぶ繁栄の歴史に幕を閉じました。

14代重州、15代重猛、16代重廣(幼名鶴千代丸)の墓は太良にあります。

ちなみに、弘治3年(1557)の蒲生合戦で自刃し、始良市蒲生町米丸字大迫に首塚が築かれた菱刈重豊は14代重州の長男です。

\*諸国を遊行する僧侶であったが、兄・隆春の死後還俗して菱刈氏4代となった。



## 始良警察署加治木史跡めぐりガイド

玉利良一

7月21日(土)、始良警察署の要請により、龍門滝～龍門司坂～高倉展望台～金山橋をまわる史跡めぐりのガイドを行いました。

今回の参加者は20数名で、平時は我々市民の安全と安心して生活できる環境を守っていただいている職員とご家族でした。もし予定日に事件や事故などが起きれば中止もしくは延期という条件でしたが、幸いなことに予定通り実施することができました。

職員のほとんどの方が始良市以外の出身で、赴任地の歴史や景観を知ることと、勤務の疲れを取りリフレッシュすることを目的にご参加いただきました。



上の写真は、今話題の龍門司坂「西郷どんの決意の杉」前での記念写真です。新しい任務地へ赴任されても始良市で勤務したことを忘れないでいただきたいと思います。

## 始良市社会科部会蒲生史跡めぐりガイド

迫村あけみ

8月2日(木)、始良市社会科部会の先生方13名の「フィールドワーク」が実施され、4名のガイドが案内しました。今年は蒲生方面で、掛橋坂・蒲生八幡神社を中心にめぐりました。

掛橋坂は、前日の雨で滑ることが予想されたため、全行程を降りることをあきらめ、降り口で、その特長や果たしてきた役割を説明しました。次に蒲生八幡神社に移動し、境内にある日本一の巨樹・蒲生のクスと、八幡神社の来歴や社殿の説明を行いました。

マイクロバスでの往復時間を利用して、行きの車中では掛橋坂との関連で「龍門司坂」「白銀坂」、帰りの車中では「北村城」「岩戸川原の戦い」などを紹介し、さらに、「米丸マール」の中を通りながら、同じ経過によって形成された「住吉池マール」について説明し、火口跡の中を走る経験を味わっていただきました。

なお、マール(maar)とはマグマ水蒸気爆発により形成された地形の一つで、火口底が地下水面より低い場合は湖となります。



## ガイド中に「西郷どん」極秘ロケに遭遇

橋木雅晴

8月3日(金)9時から16時まで、「始良地区小学校社会科研究会」の先生方9名(霧島市7名・始良市2名)のガイド案内をしました。午前中は歴史民俗資料館長より、小学生向けの館内展示について1時間の解説を受けた後、龍門司坂・精矛神社を案内しました。午後は帖佐の島津義弘居館跡・山田の凱旋門・山下井堰・蒲生武家屋敷群を案内し、暑い中熱心に研修していただきました。

途中龍門司坂でハプニングに遭遇、なんと大河ドラマで陸軍大将・西郷隆盛を演じる鈴木亮平さんの軍服姿の撮影現場に出会ってしまいました。研修を中断し20分ほどロケを見学、一段落して現場を通過する際、鈴木亮平さんから「滑らないように気を付けて」と声をかけられ、先生方も良い研修記念ができたこと、感激しておられました。



## 歴史民俗資料館 夏休み講座

### 自由研究相談会

#### 「社会科相談会」



恒吉一洋  
夏休み期間中の8月4日(土)午後1時から4時まで、小中学生を対象とした「社会科の自由研究相談会」が

歴史民俗資料館で実施されました。初めての試みで来館者の数も研究課題も予想が付きませんが、ボランティア協会員4名が対応することになりました。

当日小学生4名と中学生1名が来館しました。自由研究の内容は、小学生が「塩田について」・「始良地区の鉄道の歴史」・「家の造りの移り変わりと農具や生活用具の変化」(2名)、中学生が「江戸時代の薩摩藩の組織と武士の階級」でした。

研究課題に従い、館内の図書で調べたり、2階の展示資料で確認したりしながら学習しました。子どもたちは疑問点をしっかり聞いて熱心にメモする子や、研究テーマをはっきり認識できていない子などいろいろでした。

実施に当たり目的意識をしっかり持たせることが今後の課題と思うことでした。

### ものづくりにチャレンジ

#### 「水てっぽうをつくろう」

8月4日(土)、「水てっぽうをつくろう」が、児童11名と保護者の参加で実施されました。

製作に必要な竹・ひご・布・ハサミ・ノコギリなどの材料や道具は、資料館が用意し、私たちは補助員として参加しました。



新園淳一郎

まず館長から水てっぽうの作り方について説明があり、早速実践がスタートしましたが、最初は道具の使い方から学ぶことになりました。

できあがった水てっぽうを館外で試射しますが、残念ながら水は出てきません。ピストンに巻いた布が水に濡れると竹筒との隙間が生じて、ピストンの圧力が減るためです。

何度もピストンに布を巻き直しては、そのたびガッカリも続きましたが、成功した時の子供たちの喜びの笑顔が、忘れられない一日となりました。

### 「藍染を体験しよう」

吉田茂子

最初に藍染の歴史の説明を受けてから、染色の作業にかかりました。

藍染は、タデアイの葉からとれる色素を使って布を染める技術です。講座では時間が限られているので、化学染料を使用しました。

模様をつける絞りに使う小道具には、割りばし・つまようじ・ビー玉・ボタンなどの身近なものを使い、輪ゴムや糸で布をくくります。締め具合や布のシワの寄せ方で、思いがけない模様が現れます。

絞った布を水につけた後、藍液の中でもみながら液を染みこませます。

3分後水にくぐらせてから水分を取り、輪ゴムや糸をはずして広げると、染まった部分が緑色になって現れます。色の変化を確かめてから水洗いをし、熱めのお湯で洗い絞って乾かします。緑から藍色に変わっていく瞬間には歓声があがりました。



他にも「帖佐人形をつくろう」・「まが玉をつくろう」・「My はんこをつくろう」・「トンボ玉をつくろう」も開催され、多数の方が参加されました。

## 加治木郷土館展示紹介

### ～ もう一人の篤姫「光蘭院貞姫」好評展示中です ～

明治維新 150 年を迎え、加治木郷土館では、関連資料の展示を行っています。一つは「加治木と西郷隆盛」のテーマで展示している西郷隆盛や西南の役に関する資料で、もう一つが「光蘭院貞姫」に関する資料です。現在、大河ドラマ『西郷どん』が放送されていますが、薩長同



盟が結ばれた近衛家の別邸「御花畑屋敷」との関わりがあるのが「光蘭院貞姫」です。

光蘭院貞姫については、『市報あいら』の特集で紹介されましたのでご存知の方も多いと思いますが、弘化2年(1845)に加治木島津家9代久長の息女として生まれ、文久3年(1863)12月に公家の近衛家に嫁ぎました。この婚儀に深く関わったのが薩摩藩家老の小松帯刀です。貞姫の存在があったからこそ小松や大久保は近衛家に自由に入りができ、京都滞在中、特に小松は「御花畑」を宿舎として使えたのであろうと思われま

す。「薩摩と京都を結ぶ要として、政治的にも経済的にも精神的にも大きな役割を果たした光蘭院貞姫(島津登志子著『光蘭院貞姫と島津久光』より引用)」に関する資料として、写真や系図、夜具のほか、貞姫直筆の『道乃記』や『熱海紀行』、直筆の掛軸、明治天皇より拝領した盃などを展示しています。



また、2019年に没後400年を迎える島津義弘公に関する資料や、未完の大作『島津義弘公一代記』(絵巻物)を描いた、加治木の郷土史家で加治木郷土館の生みの親・野田昇平氏に関する写真パネル、資料なども展示しています。

来年は、義弘公没後400年を迎えます。加治木郷土館としても、加治木の町の生みの親ともいえる「義弘公」に関する展示内容の一層の充実を図っていきたいと考えています。

#### 《 編集後記 》

今年は例年になく暑い夏でした。『あいらの歴史と物語』をご愛読の皆さまには、無事にこの暑さを乗り越えられましたか？

夏休み、歴史館では、主に子供たちを対象にしたいろいろな催しが行われ、私たちもお手伝いさせていただきました。

涼しくなった今は歴史探訪などにもってこいの季節となりました。皆様方からのガイド要請を心からお待ちしています。

連絡先：始良市歴史民俗資料館

電話 0995 (65) 1553

なお、同館では12月9日まで、「戊辰戦争から西南戦争まで」と題したミニ特別展を開催しています。ご来訪をお待ちしています。